



令和3年7月12日
消防局予防課
消防局救急課

令和3年上半期火災・救急概況（速報）

～令和3年1月1日から令和3年6月30日まで～

① 火災件数が増加。特に電気火災が件数、割合ともに過去最高を記録

住宅火災では、「こんろ」の火災が増加。死者は全員が住宅火災で発生

- 火災件数は、前年同期と比べて23件（6.3%）増加しました。電気火災が増加傾向にあり、今年上半期は過去最高の114件（前年比35件増加）、全火災の29.5%を占めました。
- 住宅火災は7件増加し、「こんろ」による火災が前年同期と比べて6件増加しました。死者（放火自殺を除く）はすべて住宅火災によるもので、前年同期と比べて5人増加しています。

② 救急出場件数、搬送人員ともに、前年と比べ増加

- 令和3年上半期の救急出場件数は94,745件で、前年同期と比べて1,165件（1.2%）の増加、搬送人員は、79,937人で前年同期と比べて1,221人（1.6%）増加しました。
- 5月の救急出場件数が前年同期と比べて最も増加（16,140件、前年同期比2,040件、14.5%増）し、その内訳をみると、急病が1,278件（11.4%）、一般負傷が343件（12.4%）、交通事故が186件（26.2%）それぞれ増加しました。

1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照） ※過去10年間の平均は平成24年から令和3年までとしています。

(1) 火災件数

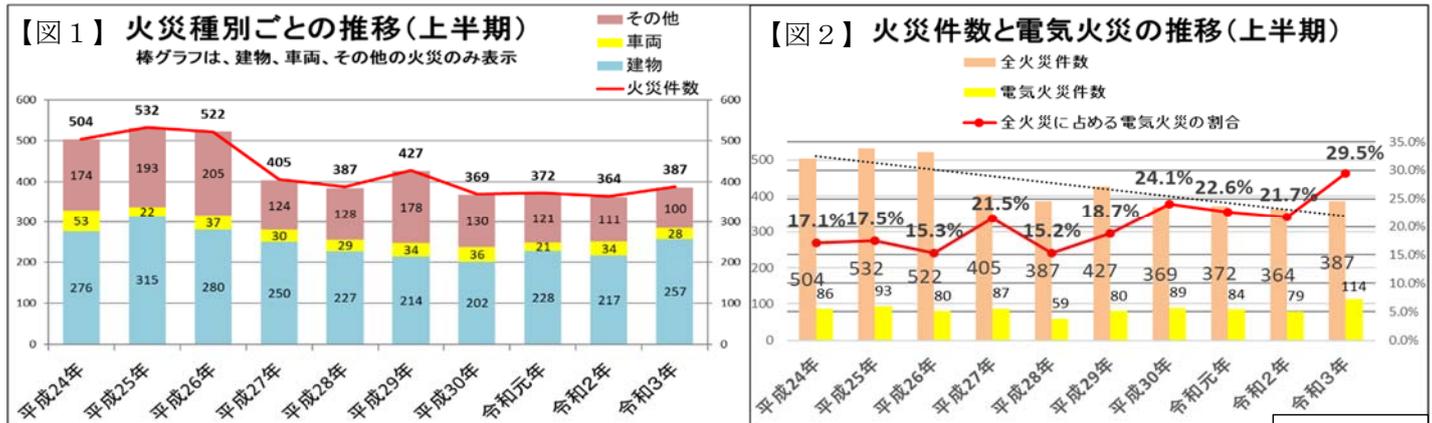
- 令和3年上半期の火災件数は387件で、前年同期と比べて23件（6.3%）増加しました。
- 火災種別の内訳は、「建物火災」257件（66.4%）、「車両火災」28件（7.2%）、「船舶火災」2件（0.5%）「その他の火災」（屋外で発生したごみ、立木、雑草などの火災）100件（25.8%）となりました。
- 前年同期と比べて「建物火災」40件（18.4%）の増加、「車両火災」6件（△17.6%）、「その他の火災」11件（△9.9%）それぞれ減少となっています。【図1】

(2) 電気に起因する火災（電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。以下「電気火災」という。）

- 電気火災が増加傾向にあり、今年上半期は過去最高の114件を記録しました。【図2】
- 電気火災では、電気ストーブ（14件）、リチウムイオンバッテリー（11件）、テーブルタップ（9件）から出火したものが上位となっています。

(3) 建物火災における焼損床面積

- 建物火災における焼損床面積の合計は6,328㎡で、過去10年で最も多く、前年同期と比べて2,911㎡（85.2%）増加しました。
- 焼損床面積が増加した要因は、工場や作業所、倉庫など大規模な建物で多くの焼損床面積が計上される火災が複数発生したためです。



裏面あり

(4) 主な出火原因

・全火災の出火原因の上位は、「放火(疑いを含む)」72件(18.6%)、「たばこ」58件(15.0%)、「こんろ」45件(11.6%)、「電気機器」26件(6.7%)、「電気配線」21件(5.4%)の順となりました。

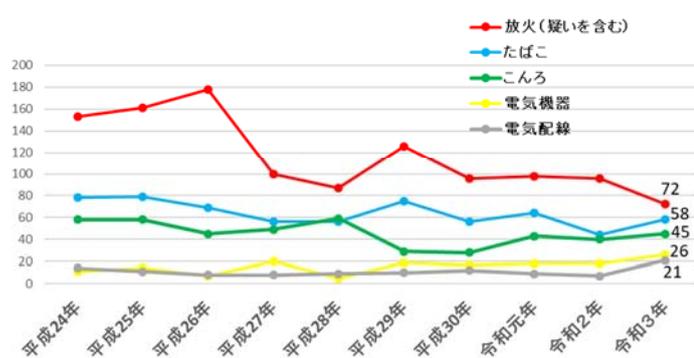
前年同期と比べて「たばこ」14件(31.8%)、「こんろ」5件(12.5%)、「電気機器」8件(44.4%)、「電気配線」14件(200.0%)それぞれ増加、「放火(疑いを含む)」24件(△25.0%)の減少となりました。【図3】

・住宅火災の出火原因の上位は、「こんろ」40件(24.4%)が最多となり、次いで「放火(疑いを含む)」16件(9.8%)、「たばこ」15件(9.1%)、「ストーブ」15件(9.1%)、「電気配線」14件(8.5%)の順となりました。

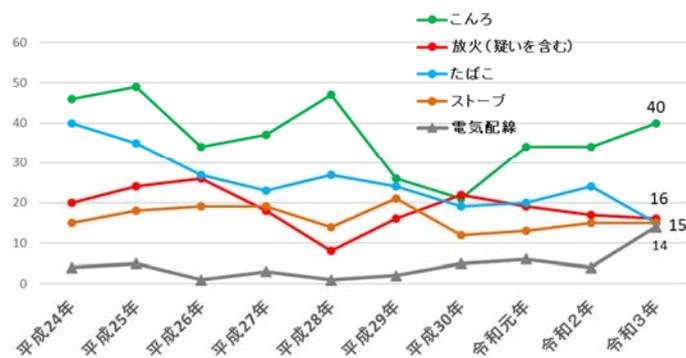
前年同期と比べて「こんろ」6件(17.6%)、「電気配線」10件(250.0%)それぞれ増加、「たばこ」9件(△37.5%)、「放火(疑いを含む)」1件(△5.9%)それぞれ減少、「ストーブ」15件(0.0%)で前年同数となりました。【図4】

・住宅火災における「こんろ」の火災は、揚げ物中に目を離していたために出火したものが13件と約1/3を占めています。

【図3】 全火災の出火原因の推移(上半期)



【図4】 住宅火災の主な出火原因の推移(上半期)



(5) 火災による死者・負傷者

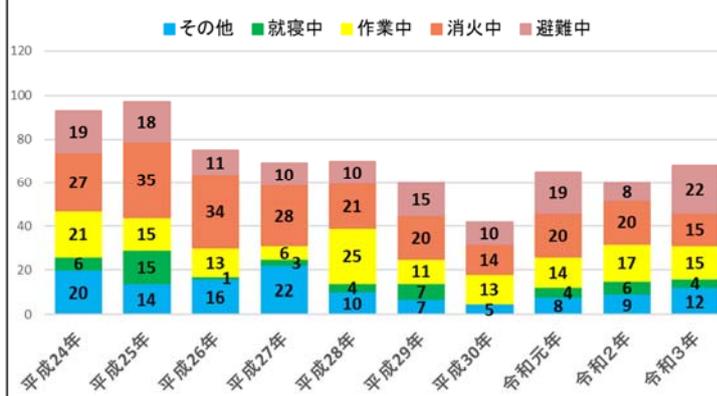
・火災による死者(放火自殺を除く)は13人で、前年同期と比べて5人(62.5%)増加しました。このうち、11人が65歳以上の高齢者(7人が75歳以上)で、**全員が住宅火災**によるものでした。【図5】

・火災による負傷者は68人となり、前年同期と比べて8人(13.3%)増加しました。このうち、19人が65歳以上の高齢者(13人が75歳以上)でした。また、負傷者の行動は避難中が22人、消火中が15人、作業中が15人、就寝中が4人でした。【図6】

【図5】 火災による死者(放火自殺を除く) 上半期



【図6】 火災による負傷者の行動(上半期)



住宅火災の死者13人のうち、**10人(76.9%)は住宅用火災警報器が未設置(設置不明含む)の世帯で発生しており、火災による負傷者の行動では避難中が22人と多く、火災の早期発見に住宅用火災警報器は有効です。**

過去10年における住宅用火災警報器設置の有無による火災件数と死者を比較した場合、10万世帯あたりの火災件数は、設置あり平均7.8件に対し、設置なしは平均74.4件で約10倍に上ります。

また、10万世帯あたりの死者数は、設置あり平均0.5人に対し、設置なしは平均4.8人で、同じく約10倍の危険性があります。

今年は住宅用火災警報器が既存住宅への設置が義務化されてちょうど10年です。時間の経過による電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなる恐れがあります。**10年を目安に住宅用火災警報器の交換**をお願い致します。



2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

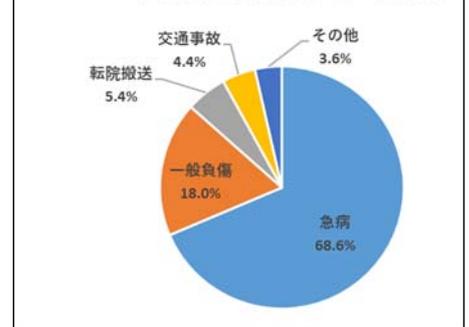
(1) 救急出場件数及び搬送人員

- 令和3年上半期の救急出場件数は94,745件で、前年同期と比べて1,165件(1.2%)増加しました。
- 搬送人員も79,937人で、前年同期と比べて1,221人(1.6%)増加しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は523件となり、前年同期と比べて9件増加しました。

(2) 事故種別別救急出場件数

- 前年同期と比べて、急病が64,984件で17件(0.0%)減少しましたが、一般負傷が17,053件で101件(0.6%)、転院搬送が5,146件で254件(5.2%)、交通事故が4,192件で200件(5.0%)それぞれ増加しました。
- 全救急出場件数のうち、急病が68.6%、一般負傷が18.0%を占めました。【図7】

【図7】 事故種別別救急出場の構成比

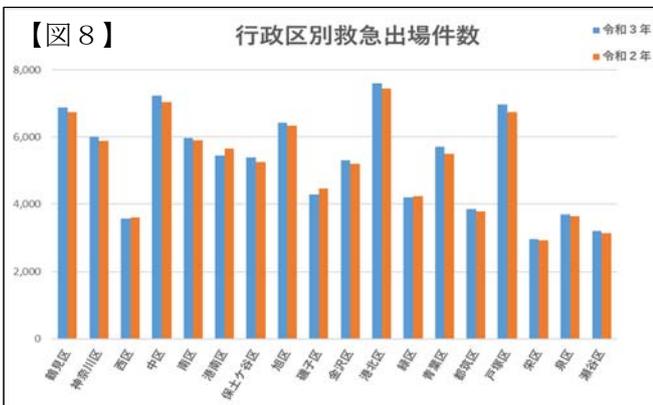


(3) 発生行政区別救急出場件数

- 救急出場件数が多い行政区は、港北区(7,596件)、中区(7,232件)、戸塚区(6,964件)の順となりました。【図8】
- 前年同期と比べて、戸塚区で222件(3.3%)、青葉区で204件(3.7%)、中区で196件(2.8%)それぞれ増加しました。

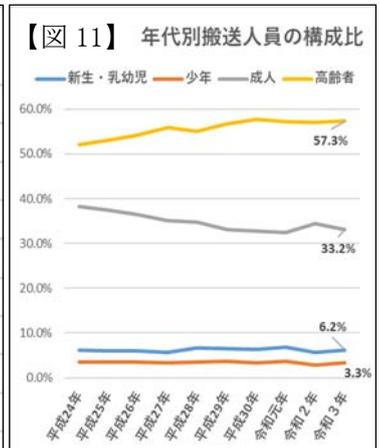
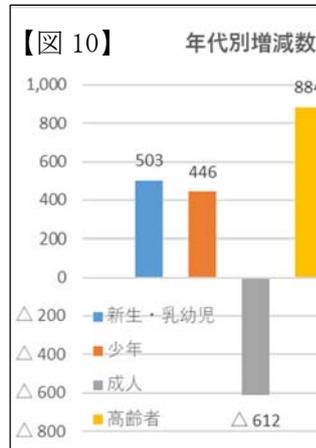
(4) 月別救急出場件数

- 月別の救急出場件数は3月以降の月で前年同月より増加しました。【図9】
- 5月は16,140件で、前年同期と比べて2,040件(14.5%)と最も増加し、その内訳をみると、急病が1,278件(11.4%)、一般負傷が343件(12.4%)、交通事故が186件(26.2%)それぞれ増加しました。また、5月の1日あたりの平均救急出場件数は521件と前年同期の455件より66件増加しました。



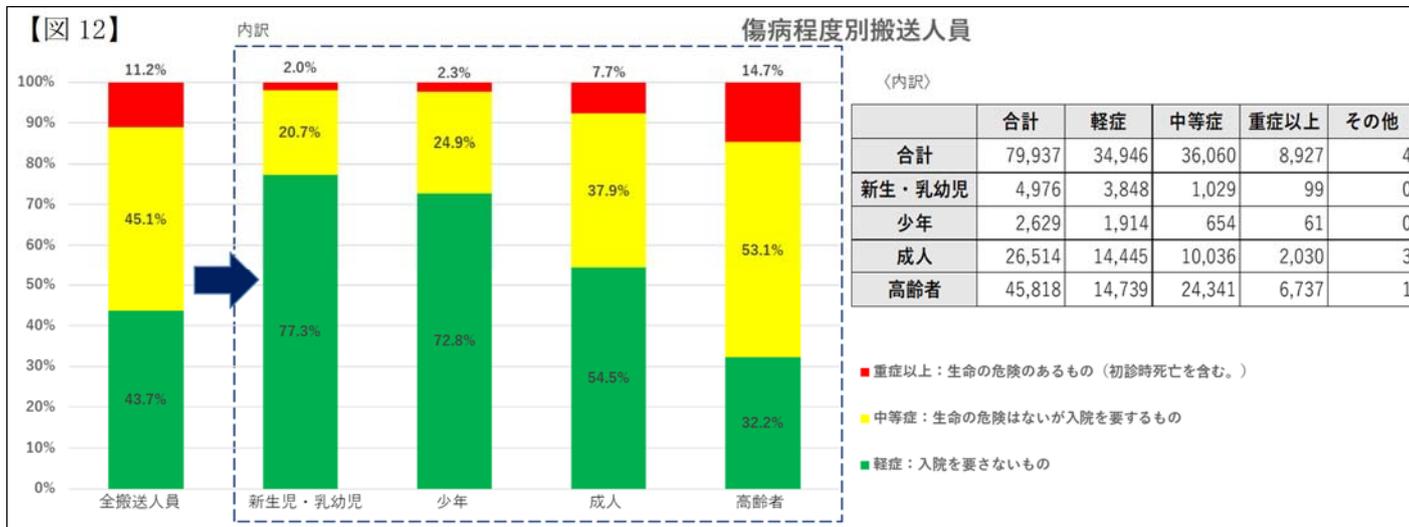
(5) 年代別搬送人員

- 成人(18歳以上65歳未満)以外の搬送が増加しました。【図10】
- 前年同期と比べて、高齢者(65歳以上)が884人(2.0%)、新生児・乳幼児(7歳未満)が503人(11.2%)、少年(7歳以上18歳未満)が446人(20.4%)それぞれ増加し、成人(18歳以上65歳未満)は612人(△2.3%)減少しました。
- 構成比でみると、全搬送人員のうち、高齢者が57.3%を占めました。【図11】



(6) 傷病程度別搬送人員

- 前年同期と比べて、中等症が2,505人(7.5%)、重症以上が522人(6.2%)それぞれ増加しましたが、軽症は1,807人(△4.9%)減少しました。
- 新生児・乳幼児、少年、成人では、5割以上が軽症であるのに対して、高齢者では、入院が必要となる中等症、重症以上の占める割合が約7割となりました。【図12】



これから本格的な夏が始まります。

昨夏の熱中症の救急搬送は、梅雨が明けた8月上旬の暑さ指数（WBGT）が28℃以上の厳重警戒の日に増加しました。しかし、8月下旬以降は体が暑さに慣れたと考えられ、暑さ指数が28℃以上を記録しても熱中症で搬送される方は少なくなる傾向となりました。



横浜市消防局マスコットキャラクターハマくん

昨今の新型コロナウイルス感染症への対応により、マスク等を着用した生活が続く中、今夏も例年以上に熱中症対策が必要となります。

マスク着用時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で適宜マスクを外して休憩し、こまめに水分・塩分補給をするなど熱中症にお気をつけください！



※熱中症搬送状況は、熱中症疑いも含まれます。
 ※令和3年搬送人員は速報値のため、後日変更する可能性があります。
 ※暑さ指数（WBGT）は、環境省のデータを使用しています。

お問合せ先

(火災に関すること) 消防局予防課長 宇多 範泰 Tel 045-334-6601
 (救急に関すること) 消防局救急課長 長谷部 宏光 Tel 045-334-6771

火災概況〈速報〉

1 火災種別

単位：件

区分 \ 年別	令和3年 (A)	令和2年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成24年～令和3年) (C)	増△減 (A) - (C)
火災件数	387	364	23	427	△40
建物火災	257	217	40	247	10
住宅火災	164	157	7	161	3
林野火災	-	-	-	-	-
車両火災	28	34	△6	32	△4
船舶火災	2	2	-	1	1
航空機火災	-	-	-	-	-
その他の火災	100	111	△11	146	△46

2 主な出火原因

単位：件

区分 \ 年別	令和3年 (A)	令和2年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成24年～令和3年) (C)	増△減 (A) - (C)
主な原因					
放火(疑いを含む)	72	96	△24	117	△45
たばこ	58	44	14	64	△6
こんろ	45	40	5	45	-
電気機器	26	18	8	16	10
電気配線	21	7	14	11	10

3 損害

区分 \ 年別	令和3年 (A)	令和2年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成24年～令和3年) (C)	増△減 (A) - (C)	
損害	焼損床面積(m ²)					
	建物火災	6,328	3,417	2,911	4,147	2,181
	住宅火災	2,456	2,828	△372	2,513	△57
	死者(人)	13	10	3	15	△2
	放火自殺者	-	2	△2	2	△2
負傷者(人)	68	60	8	70	△2	

4 行政区別火災発生状況

単位：件

区分 \ 年別	令和3年 (A)	令和2年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成24年～令和3年) (C)	増△減 (A) - (C)	
行政区	鶴見区	21	30	△9	40	△19
	神奈川区	19	21	△2	26	△7
	西区	20	18	2	18	2
	中区	40	29	11	38	2
	南区	24	23	1	28	△4
	港南区	32	25	7	23	9
	保土ヶ谷区	19	13	6	19	-
	旭区	26	23	3	28	△2
	磯子区	16	11	5	14	2
	金沢区	22	19	3	18	4
	港北区	32	33	△1	38	△6
	緑区	13	20	△7	20	△7
	青葉区	24	15	9	23	1
	都筑区	17	16	1	21	△4
	戸塚区	23	34	△11	28	△5
	栄区	7	6	1	9	△2
	泉区	18	15	3	19	△1
瀬谷区	14	13	1	19	△5	
合計	387	364	23	427	△40	

備考 住宅火災件数は建物火災件数の内数。また、放火自殺者数は死者数の内数

過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

令和3年上半期の救急状況〈速報〉

1 救急出場件数

区分	令和3年	令和2年	増△減	増減率
救急出場件数	94,745	93,580	1,165	1.2%
1日あたりの件数	523	514	9	

2 事故種別別救急出場件数

区分	令和3年		令和2年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	94,745	100.0%	93,580	100.0%	1,165	1.2%	
事故種別	急病	64,984	68.6%	65,001	69.5%	△17	0.0%
	一般負傷	17,053	18.0%	16,952	18.1%	101	0.6%
	転院搬送	5,146	5.4%	4,892	5.2%	254	5.2%
	交通事故	4,192	4.4%	3,992	4.3%	200	5.0%
	その他	3,370	3.6%	2,743	2.9%	627	22.9%

3 傷病程度別搬送人員

区分	令和3年		令和2年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	79,937	100.0%	78,716	100.0%	1,221	1.6%	
程度	軽症	34,946	43.7%	36,753	46.7%	△1,807	△4.9%
	中等症	36,060	45.1%	33,555	42.6%	2,505	7.5%
	重症以上	8,927	11.2%	8,405	10.7%	522	6.2%
	その他	4	0.0%	3	0.0%	1	33.3%

4 年代別搬送人員

区分	令和3年		令和2年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	79,937	100.0%	78,716	100.0%	1,221	1.6%	
年代	高齢者	45,818	57.3%	44,934	57.1%	884	2.0%
	成人	26,514	33.2%	27,126	34.5%	△612	△2.3%
	少年	2,629	3.3%	2,183	2.8%	446	20.4%
	新生児・乳幼児	4,976	6.2%	4,473	5.7%	503	11.2%

5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和3年		令和2年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	94,745	100.0%	93,580	100.0%	1,165	1.2%	
行政区	鶴見	6,879	7.3%	6,750	7.2%	129	1.9%
	神奈川	6,014	6.3%	5,891	6.3%	123	2.1%
	西	3,585	3.8%	3,631	3.9%	△46	△1.3%
	中	7,232	7.6%	7,036	7.5%	196	2.8%
	南	5,969	6.3%	5,907	6.3%	62	1.0%
	港南	5,439	5.7%	5,650	6.0%	△211	△3.7%
	保土ヶ谷	5,385	5.7%	5,246	5.6%	139	2.6%
	旭	6,421	6.8%	6,330	6.8%	91	1.4%
	磯子	4,285	4.5%	4,456	4.8%	△171	△3.8%
	金沢	5,299	5.6%	5,207	5.6%	92	1.8%
	港北	7,596	8.0%	7,441	8.0%	155	2.1%
	緑	4,210	4.4%	4,233	4.5%	△23	△0.5%
	青葉	5,707	6.0%	5,503	5.9%	204	3.7%
	都筑	3,850	4.1%	3,783	4.0%	67	1.8%
	戸塚	6,964	7.4%	6,742	7.2%	222	3.3%
	栄	2,975	3.1%	2,940	3.1%	35	1.2%
	泉	3,692	3.9%	3,654	3.9%	38	1.0%
	瀬谷	3,214	3.4%	3,147	3.4%	67	2.1%
市外	29	0.0%	33	0.0%	△4	△12.1%	

6 月別救急出場件数

区分	令和3年		令和2年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	94,745	100.0%	93,580	100.0%	1,165	1.2%
1月	16,422	17.3%	19,065	20.4%	△2,643	△13.9%
2月	14,099	14.9%	16,479	17.6%	△2,380	△14.4%
3月	16,086	17.0%	15,557	16.6%	529	3.4%
4月	15,551	16.4%	13,726	14.7%	1,825	13.3%
5月	16,140	17.0%	14,100	15.1%	2,040	14.5%
6月	16,447	17.4%	14,653	15.7%	1,794	12.2%

※すべての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。